

三十組之記

人

雨月香 蛙香
雪月香 四季香
雲月香 三景香
寐覺香 時雨香
春秋香 千鳥香

ヲ多9

1398

26

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



三十組之内人

雨月香

三景香

蛙香

寢覺香

雪月花香

時雨香

四季香

春秋香

雲月香

千鳥香

雲月香

小豆香

四本香

香林香

雲月香

報雨香

歙香

嘉慶香

雨月香

三景香

三十餘之內入

香八種

雨月香



雨一

二包三港內一包試

雨二

右同以

雨三

右同以

月一にて

右同

月二にて

右同

月三にて

右同

軒一にて

一色徳を試

窓一にて

右同

右試終りて雨月の六包お交内より三包

取是より軒の香を入柱出に試し合れお

右四柱中終りて又残三包より窓の香を

入お交柱出に少紙花月香の如し

此は客香兩種の故点星二と交へ

又客香一種より少由時より
星ニツより一点消ゆるは星の教に寄
て終る勝負ある事む一重人教と
花月香のてよりニツより分て雨方月方
より少由より星の教に寄

雨方より雨方の客香軒の香より
より八魚二人少六魚三人何人より
四魚つて
雨方より月方の客香軒の香より
六魚二人少四魚三人より二魚つて少

点田のし星を付て雨の一二三の花月
 香月あし知る月方と先は順に
 尚記詠の面々終可考たそ

雨一 月一
 雨二 月二
 雨三 月三
 軒 一 窓 一

雨月香之記

月一 軒 雨三 月三 雨一 月二 窓 雨二
 雨方 勝

軒梅 月一 軒 雨三 月三 雨一 月二 窓 雨二 全
 青柳 月一 雨一 雨三 軒 月三 月二 窓 雨二 星八

月方

杜^名若 月一^軒雨二^雨三月三^窓雨一^{息十五}

小^名萩 雨一^雨雨三^軒窓月二^月雨三^{息二}

月日 出香名衆

是上順

蛙香

香五種

池蛙

四包德内一包試

田蛙

右同以

沼蛙

右同以

水とて

三包とて試

井と蛙とて

一包とて同

右試す先最初池田沼の蛙三包と
九包とて交三包先水の香三包入
六包とて交少等池田沼の六包と井と蛙の

一包と入七包とて交蛙とて多但は時の一蛙
開いて井と蛙とて交夫きとて少とて
多とて先井と蛙の聲とて少とて外の蛙の音
と止むとて少とて少とて但は六
包とて不面とて記限とて不残書南とて八点

生へ一脈七種のあり斗と書附く不為
 不書む点もふ入る、眞香同る心得
 外色くの少極有とて、面時
 不用故、爰略すは少面時より用と
 知る、根記の表より蛙と可考たのこ

蛙香記

池蛙
 田蛙
 沼蛙
 水
 井蛙
 沼田池沼井蛙
 水沼田水田

名札
 田田水
 沼水水
 田沼

名札
 水沼水田
 沼田池沼井蛙
 全

月日

出香 各衆

記録上ノ順

雪月花香

香四種

雪 一 包 三 包 三 包 三 包

月 一 一 右 同 以

花 一 一 右 同 以

客々々々

二包俵内一包試

右試香終りて本香十包お交焼きたれ
の初極の一番の香より一同は雪のれと打へし
二の香より一同は月のれと打なり三の香より
一同は花のれと打へし客香の試すは故は

客々々々所々客々々々此れお命一息の
法は或は雪と雪と月と雪と花
といふと南り点りて又は本香お交焼
先始試終りて本香一柱出た雪月花
の九包お交て内一包は焼きたるに残八包は

客香と入又折交炷^カ_カ—_カ少の_カ寄

て銘_カ少の下_カ名目有たの_カ—_カ

雪と雪_カ—_カ雪と書

月と月_カ—_カ月と書

花と花_カ—_カ花と書

雪と月_カ—_カ白竹と書

雪と花_カ—_カ木と盛と書

月と雪_カ—_カ朝糸と書

月と花_カ—_カ寂中と書

花と雪_カ—_カ三芳野と書

花と月

脱衣と書

一炷と角

眠と書

客香の書札有たのこ

雪の客と書

稀人

月の客と書

一夜友

花の客と書

下卧

如斯む右の名目へめいくのさ斗る

本香の客の文字より書る所記の

面より能く可なりたのこ

雪月

雪

月

花

ウ

雪月花香記

花雪花月 月雪雪月花

名
白梅

雪月雪花 下卧花月 月花雪

三茅野 白妙全
最中

名
青柳

雪月花 雪雪稀人月 月花花

白妙花 五

月日

出香 名衆

記録是順王 一 危角 一 十柱香の意

少分

香五種

四季香

四季香

水

三
色
內
色
試

水
下
三
色
混
內
色
試

雲

右同門

雲
右同所

同

右同

月
丁

右同

嶺より

右回り

中央より

一色に認む

右試香は、出香八包と打交内より四包
取是より中央の一色と入五包より一色
試は合、各乗紙は書附せしに、
後最初は除き、四包の内より二色を又

各乗紙は書付し、
春秋勝負と、
書付し、
たのし

春後より時ハ

秋より月よりものうらさ

梅より春の山さ

秋勝より時ハ

花より紅葉より出の音も

いさくおふく秋ハまね

春秋持の時ハ

春秋、あひいふれてさきぬつ

さきさきさきさきさき

右の歌といふ一首書分春秋

勝負とくくの中春の水夏の雲と春
 の香く秋の月冬の雲と秋して一
 の香くと等へ春の方何点秋の方何点
 集りて点多きうと勝負を中
 央の手に柄のて勝負の教を不入る

猿記の面より考たの

水

雲

月

嶺

中央

四季香之記

月

中央

水

月

嶺

月

水

名

月

中央

水

月

嶺

月

水

全

名

月

月

水

中央

嶺

月

水

五

花とつねふとく中をてく多く秋はま

月日

出香名衆

記録之順も一又水月の香一人少点
て中央の香同る四五又右の記録も
歌のよ春あふ秋後紙書るす有
ふ及や勝負の皆歌くき人依て

當時不用紙も一又紙
ハ一ツも用る半も有時は

は紙香の陶別明四季詩

春水満四澤

夏雲多奇峯

秋月初明輝

冬嶺秀孤松

右の詩は寄て紀とろく

雲月香

香三種

月とて

二包徳内一包試

曉雲とて

同を試

夕雲とて

右同試

右試香終りて出香五包打交炷出り雲の
香二種ありて始りし方と曉雲とて
後よりしと試しすなり月の試し合て
何番目しとすなり引終りて名乗紙
に書附出りて終りて記録しなりとあり

点も終りて試四種の終りて点あり
少り下又本香の下に名目あり灰の
如し

初の月多れ
待宵と書
曉雲の次よれ
至月と書

夕雲の次は 十六夜と書

尚記の面々能く可考又一少は初月と
三ヶ月と書二番目と待月と書三番目
真中と定月と書四番目と十六夜と書
五番目と残月と書少く有後改多し

何と時定より 後改の記録たの
三月斗少く人教の少く枕と書

古少より

月 曉雲

雲月香之記

夕雲

夕雲 曉雲 夕雲 曉雲 月

名

曉雲夕雲 曉雲夕雲 月残月

叶

名

曉雲夕雲 夕雲 曉雲 月残月

一

月日

出香 名衆

記録

是より順も今

全の人々の下殺の

所

よ雲月と書記も有 時定 寄今

三景香

香四種

松島 一 二包 徳内 一包 試

楊立 一 二包 右同 試

嚴嶋 一 二包

右同 試

舟

一色紙を試

右試香はく出香四包を折交焼く
試は合少舟を試一焼と客香舟と
舟舟 扱少焼く名乗紙に書付
山銘と南に依てまゝの名目有

尤下は書舟 点板の文字不入
舟舟 左の

全の人

三景と書

二種南

夕方と書

一種南

銅方と書

舟場の南

眺むる

舟場の北

雲を看る

右の通り舟場の面より往く可き記録

左の通り

松島

舟

松島

舟

三景香之記

松島 舟 松島 橋立

名 松島 舟 松島 橋立

三景

名 舟 松島 松島 橋立

夕景

月日

出香 名乗

記録之順序

升穀子

月日人

本分

分

三

麻芝香

香四種

礎

麻

虫

右同

枕として

一包、湯を試

右試終りて出香硯、麻魚の三種六包
お交内より二包取、是より枕の香一短加へ
四包より又お交、煙出、少終りて名乗紙
よ書付、出、竹、南、依て花の名目と

すの下、反、さ、ん、を、魚、取、不、入、く、花、の
と。

金の人より

庭、雙、見、と書

三種の字より

曉の、井、多、と書

二種の字より

旅の、井、多、と書

一種のやう

香の寝芝と書

やう

香と書

に録たの

礎

麻

虫

寝芝香に

枕

礎 礎 虫 枕

名 礎 礎 虫 枕

寝芝

名 礎 礎 枕 虫

寝芝

月 日

出 香 名 采

まろく 是は順と

香五種

月日

茶

分

香

時雨香

香五種

一

二

三

右同

右同

右同

四〜下

右同リ

五〜下

右同リ

右一二三四五と五包つて結び合右の角
一結びて解て先一方の五包お交焼出に
次よ又五包お交焼出に 形よ五種少〜と

試〜下 少〜下 五試十粒香の〜
少〜下 記紙よ書付少〜下 認得 右よ一二
三四五と認得 是よ終りの少〜下 書付
形よ五包の香 四五一三二と出ても 五種
共形得 一二三四五と書付 五〜下

今少の人よ 閑の下よ 歌一首書分
其歌たのそ

木葉ちるやふさふさ方々

ふれも ねも 時 せぬ ぬも

に 尿の面より 終る可考たのそ

時雨香之記

二二
三三
五五
一一
四四
五五

一
二
三
四
五

名

一一
二二
三三
四四
五五

二

名

一一
二二
三三
四四
五五

四

月日

出香 名 采

記錄是順令

春秋香

香二種

夜

三包德内一包試

露

右同

右試香
移了出香四包
右交内个二包

取炷き 試し合名衆紙に書付し
今に二種より歌一首書付し
歌たのし

夜くし

立くは花といふも大く

夜くし 春の明め

夜くし

衣に秋の夕乃白露冬

誰そくしにたまゆ

夜くし

今夕よ山を返る水は清く

いよのうきふ 春のよけ

露 辰とすい

空の風の風 一 ありて

明 雲間 積る 土 雪

花記の表より 能く可考なる

辰 一

春秋香之記

辰 一

名

今夕よ山へく なる

叶

名

まふん花より なる

一

月日

記ろく先ノ順も中ノ入息藏紙今一法有

二夜亭

今また山へうきれ
いふのききん我篇よりけ

狂能く考中

千鳥香

香四種

一 一 一

三 包 浸 肉 一 包 試

二 一 一

右 同 以

ウ 一 一

一 包 浸 試

客として

右同

右試香はく出香六包お文内四包取
炷せん開はく残り二包お文炷せき
争初後共ウ客の香の南と亦一
くすく其外の香試合れや争

但試の二種と炷合うて争事なれども
初心のちあるすくさう炷合ふ
く輩の時定より争炷合はば其の
秘事あり依て初心に不免に二度す
てはる折居二つ出き争く点の法を

始はウ冬ある種にも有らず南より下
はたの歌の上の句と後、兩種にも有
ず南より同所は下の句と書ウ冬と
初後は出南り又全の人の歌一首書
初後はウ冬有らずて初南り後不南り

是るふと書同少て始々南後南
ハ千代と書同少て初後共
南より歌一首書今銘と点の下
は書今歌たの

是るふと書出れ磯住子鳥

君々御代よりハナ代と云

其記の面々能く可考たの事

千鳥香之記

客

ニウニ客

名札

ニウニ客

あるはナニの故に住ふ事
君々御代よりハナ代と云

全

名札

ニウニ客

ハナ代と云

四

月日

出香名乗

記録より順に又其の札よりナニ

ハウの事ニハナ代客の香より客札

打身 既轉 可考 木

新授 前殿 是 十八 日 在 山 中 寺 中

月 日 一 出 寺 來

在 山 中 寺 中 一 出 寺 來

在 山 中 寺 中 一 出 寺 來 全

四十組目錄

- | | | | | |
|---------------|--------------|------------|--------------|--------------|
| 一
子日香 | 二
梅花香 | 三
梅烟香 | 四
雉子香 | 五
櫻香 |
| 六
卯花香 | 七
五月香 | 八
郭公香 | 九
山路香 | 十
篝火香 |
| 十一
千種香 | 十二
女席花香 | 十三
月見香 | 十四
名月香 | 十五
望月香 |
| 十六
野分香 | 十七
柔合香 | 十八
龍田香 | 十九
時雨香 | 二十
落葉香 |
| 二十一
宇治名所香 | 二十二
雄波名所香 | 二十三
玉川香 | 二十四
二見香 | 二十五
陸奥名所香 |
| 二十六
源氏京極町香 | 二十七
乙女香 | 二十八
空蟬香 | 二十九
四季老歌香 | 三十
松風香 |
| 三十一
六歌仙香 | 三十二
替花月香 | 三十三
ウ客香 | 三十四
杜律香 | 三十五
三種名香 |

^{四六}扇爭香

^{四七}琴瑟香

^{四八}五方香

^{四九}佳吉香

^{五〇}三千年香

三十組目錄

^一系回香

^二古今香

^三烟競香

^四忍香

^五佳吉香

^六新月香

^七三友香

^八星合香

^九三夕香

^十一二三香

^{十一}草木香

^{十二}時鳥香

^{十三}鳥合香

^{十四}寫香

^{十五}三鮮香

^{十六}字治香

^{十七}翠歌香

^{十八}四景香

^{十九}山路香

^{二十}五色香

^{二十一}雨月香

^{二十二}蛙香

^{二十三}雪月花香

^{二十四}四季香

^{二十五}雲月香

^{二十六}三景香

^{二十七}雁聲香

^{二十八}時雨香

^{二十九}春秋香

^{三十}十鳥香

